



パワーエレベーター

革新的な抜歯システムの紹介

東京都 インプラントセンター 21 三好デンタルクリニック 三好敬三

抜歯をしていく上で、抜歯に「はまった（思わぬ苦戦をした）」経験はありませんか？すぐ抜けると思っていたものが30分くらいかかったり、分割しなくてはならなかったり、骨と歯牙の間にヘーベルを入れて骨にダメージを与えてしまったり・・・ところが、今回、デンタルUSA社の「パワーエレベーター」を使うと、ストレスなく、驚くほど簡単に抜歯できました。大白歯の湾曲根やしかりした歯牙など、どんな歯でも最大ほぼ10秒くらいで抜歯できます。

当初、骨色の良い矯正の便宜抜歯が1～2秒で抜けた時は、本当に驚いてしまいました。しかし、このシステムの利点は単に短時間で簡単に抜歯できるだけでなく、歯槽骨にダメージを与えず脱臼させることも、他の抜歯器具よりはるかに優れている点だと思います。

パワーエレベーターは左右一対の鉗子からなり、先端の一方が「パッド」と呼ばれる360°自由に回転する平面のプレート、もう一方が歯牙に喰らいつく「ベアクロー」からなっています。それぞれの鉗子は右側用、左側用として使い分けるのではなく、両方で口腔内全ての部位の歯牙に対して使用します。まず、抜歯対象の歯牙に対し、パッド、およびベアクローが合わせやすい方の鉗子を使い、パッドを歯肉、ベアクローを歯牙のなるべく下方にあてがいます。この状態で鉗子を握ります。（歯牙によってはこれだけで抜けてきます。）次に、ベアクローを引き上げる側に少しだけゆっくり捻転させ、この状態をしばらく保ちます。（この操作でほとんどの歯牙が抜歯できます。）もし、これでも抜けてこないようであれば、もう一方の鉗子に持ち替え、前述と同じ操作を歯牙の反

対側（頬舌的）で行います。

感覚と原理は、ちょうど栓抜きでビンの王冠を抜く感じです。歯牙が脱臼したときの感覚が、栓抜きの頭を王冠にあてがってゆっくりと持ち上げ、王冠がビン口のアンダーカットから外れたときの感覚を連想させます。

パワーエレベーター使用時のポイント

・パッドは歯根の長さの半分くらいの位置に相当する歯肉上、ベアクローは歯牙のセメントエナメルジャンクション周辺にあてがう。

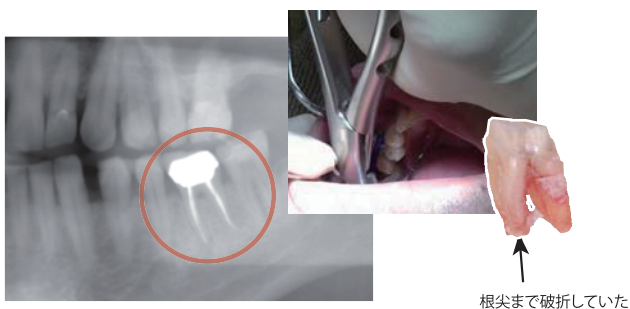
・パッド/ベアクローのあてがう部位が決まったら、徐々に握力を掛けながらパッド（ベアクローを引き上げる）方向にわずかにゆっくり捻転させ、その状態で保持する。

・硬くて動かない場合は、もう一方の鉗子を使い、パッドを反対側（頬舌的）にあてがい同様の操作を行う。これによりほとんどの歯牙の抜歯が可能。

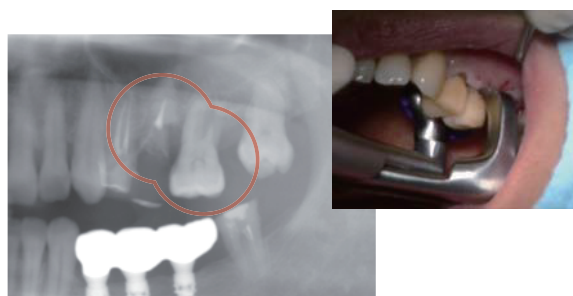
・患者が歯肉にパッドが当たる部位に痛みを感じることもあるので、同部位に麻酔をしておく。

・本器具を使用することで、あまりにも簡単に抜歯処置が済んでしまうため、対象の歯牙を間違えないように十分注意する。

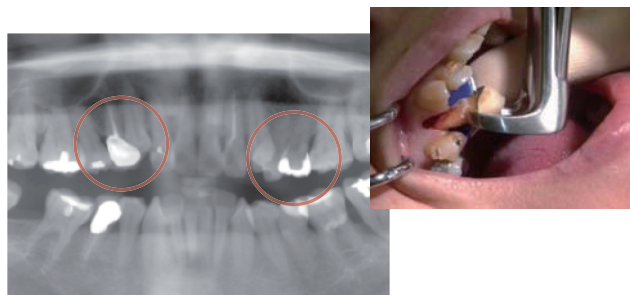
※ 症例写真の提示だけでは皆様に一瞬で抜ける感覚が伝わりにくいと思いますので、今回は症例の動画をインプラテックスホームページ (<http://www.itx.co.jp>) に用意しました。撮影条件があまり良くなかった動画ですが、是非こちらをご覧ください。



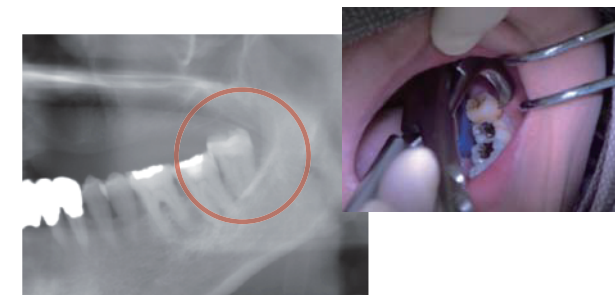
症例1: 左下6番: 歯根破折による抜歯のケース
・しっかりした根の大白歯でも短時間での抜歯ができる。



症例2: 左上5番: 残根、同6番: 根分岐部病変による抜歯のケース
・クラウンの補綴歯にパワーエレベーターを使うと、先にクラウンが外れてくることもある。
・ベアクローがしっかりかかると、歯牙がつぶれない程度の力で把持することで残根も抜歯できる。



症例3: 右上4番、左上5番: 矯正治療における便宜抜歯のケース
・それぞれ1、2秒で抜歯完了。



症例4: 左下8番: 上顎の総義歯化に対する咬合平面調整のための抜歯のケース
・延出しているが、骨にしっかり植立していた歯牙。